
おわりに

「袖^{そで}触れ合うも他生^{たしろう}の縁」

仏教の輪廻転生の思想が流れているこの言葉は、袖（着物の振袖を想像してください）が触れ合うような、ちょっとしたことでも、前世からの深い因縁によって起こるものであるということです。「他生」は「今生^{こんじょう}」の対語で、前世だったり来世だったり。まるで、今流行りのスピリチャル・ワールドですね。

非科学的な物語や空想は、「想像力（創造力）を養う」ことにつながっているのだと思います。しかし、よりよい生活を求めるあまり、近代化のなかで「想像力」が枯れてきたのではないのでしょうか。

「振り込め詐欺」とはよくいったもので、まじめに働いてコツコツと保険料を振り込んだのに、領収書も出さず、その記録がないなどという「社会保険庁の詐欺」が横行している日本です。なんと頭のいいことでしょう！税金は集め放題、使い放題。これで逮捕者が出ないのですから！「人様にご迷惑をかける」という想像力がなくなったのでしょうかね。日本国民は、飼い馴らされた羊のように、暴動を起こすこともなく、誠に平和な国です。

いったい、どうしたらいいのでしょうか。おそらく、それは1人ひとりが自分の頭で考え、情報を収集し、自分の責任においてベストだと思うものをチョイスしていくという積み重ねしかないのでは。たとえ、選挙にいて、自分が投票した候補者が当選しなくとも、その選択を自分で行ったのだということに、自覚と責任をもつことです。日々、どのような食べ物を口に入れ、服を着、どこに行くか、何をするかに関心でいられますか？あなたに選挙権がないのであれば、選挙にいて、「なぜないの？」と文句を毎回言い続けるのもいいと思います。

環境破壊を止めるには、貧困を減らすにはどうしたらいいのか。グローバルに「袖が触れ合う」今日、日本だけに留まらない問題ばかりです。この本には、「こたえ」はありません。「こたえ」があるとしたら、これを「ご縁」に、あなた自身が調べ、対話し、選択していくプロセスのなかにあると思います。来世

の子どもたちに地球を残すなら、今生に生まれてきた「縁」を大切にすることから、想像力を起動させて、「ちょっとしたアクション！」から始めてみるのはどうでしょうか。

「日本型近代化の再検討—20世紀における国際結婚の分析を通して—」（科学研究費補助金課題番号16730275）の成果が、『国際結婚論!?【歴史編】』の第4講から『国際結婚論!?【現代編】』です。この文部科学省からの補助金のおかげで、念願だったサハリンにも行くことができました。植民地時代、朝鮮半島から徴用された人々が、サハリンの炭鉱で賃金未払いのままになっている資料を見せていただきました。「日本型近代化」は、現在の外国人研修生や日本の若年層の雇用形態の多様化に、形をかえて息づいています。補助金をいただくと、報告書を書きます。そのほとんどが、一般に流通することはありません。せっかく、税金を使わせていただいたのですから、『国際結婚論!?』の【歴史編】と【現代編】の2冊を出版することによって、「ご縁」のお裾分け（袖じゃなく、裾を分けるのですね!）です。お金を払って本を読んできたのですから、カレシやカノジョに「!?」のお裾分けをしてみてください。「金」も「情」もめぐり、めぐって、あなたのもとへ、もどってきますから!

「ご縁」が、グローバルにひろがりますように。

北京オリンピックのあった2008年

源氏物語千年紀の京都にて 嘉本 伊都子